



Subaru

男声合唱団

ニュース№592

'16. 11. 30

2016 日うた in 愛媛 昴「合唱発表会B」の「講評」が届きました！

□「日本のうたごえ祭典 in えひめ」の合唱発表会一般の部（B）で銅賞を受賞した「昴」の合唱に対しての「講評」が届きました。非常に好評で、あたたかな評価。また改善点の指摘も的確を射ているか。これからの昴の活動の励みになりましょう。「賞状」も届きました。

日本のうたごえ in えひめ
合唱発表会・審査員講評
2016.11.13

合唱団名 男声合唱団昴

指揮 本並美德
ピアノ 近藤 静

講 評 者	「白樺」	「わたしの朝は海からはじまる」	全体として
浅 井 恵 壹	音楽が深い。すばらしい。ハーモニー・アンサンブルともに美しい。言葉をとても大切に歌っておられる。	リズム感すばらしい。※パートの音をさらにひとつにお願いします。曲の感じがとても良く出ている。2曲の歌い分けが見事。	男声合唱を感じました。
轟 志 保 子	年季・貫禄充分の演奏です。声の方向、息の方向が上むきになると更に良いと思います。	タテの線がピシッと決まって、気持ちの良い演奏です。演奏の力で団員が増えることがよくわかります。音程を注意されたい箇所あり。	
木 村 勢 津	独白のような曲想を見事に表現されていました。歌心を感じる素晴らしい演奏でした。ハーモニーもしっかりしていました。	1曲目と対照的な力強い男性のたくましさを感じさせてくださる演奏でした。ソリストの台詞（せりふ）が届かなかったのが残念でした。16分音符で声が揃わない箇所が残念でした。	男声合唱ならではの響きを堪能させて頂きました。ありがとうございました。
尾 高 進	出だし、このテンポの感じ（ゆっくり）がやや不安定のように聞こえました。→このテンポは必然？と感じてしまいました。その後はよかったですと思います。	（出だし）かけ声とうたとのバランスがやや悪いように思いました。またメロディラインがよく分からない部分があり残念。全員で同じ動きをするところ（ハモるところ）は男声合唱らしい重厚な響きでよかったので、残念。	

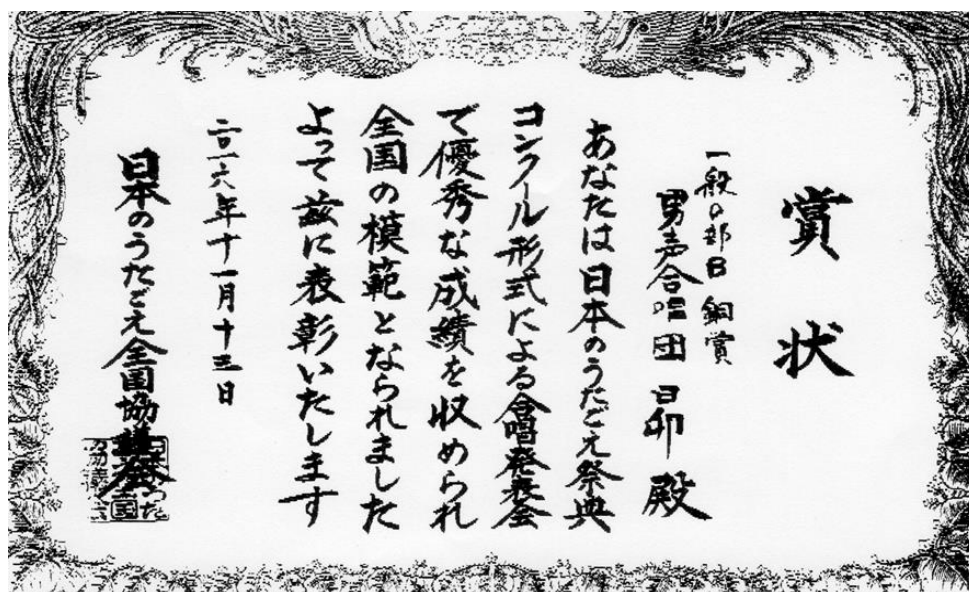
松浦登雄	豊かな男声、ダイナミックな演奏。p部分の声のささえを大切にしましょう。音楽の流れる部分があってもよいのかも。	たくましが男声によく出ている。フォルテ部分きちっと音程が合えばもっと素敵になると思います。	
小村公次	実によくまとまった男声合唱。これで TopTenor の高音と Bass の低音という両レンジの広がりさらに磨かれた響きになると思われる。	重厚な響きのハーモニーはさすがだが、アカペラということもあって、ハーモニーの純度が曲の進行とともにやや甘くなっているのが残念。	
小田倫史	曲の内容を表現しようとするこの意欲、しかも男声、言い過ぎかもしれませんが音楽表現の”純粋性”を聞かせていただきました。フレーズの作り方がていねいですばらしいです。	一転して男声合唱の力強さの魅力、しっかりと聞かせていただきました。こちらはアカペラということもあり、勢いもあったので、フレーズの処理が荒いところもありましたが、表現意欲は素晴らしいです。	大変意欲に満ちた、純粋に音楽/コーラスを楽しんでいる雰囲気、意志にも満ちたすばらしい団体です。これからも頑張ってください。

なお講評者の肩書を（ ）内に記載しました。敬称略

浅井恵壹（全日本合唱連盟名誉会長）轟志保子（中央合唱団団長）木村勢津（愛媛大学教授）

尾高 進（わかちば一歩指揮者）松浦登雄（浜松センター合唱団指揮者）小村公次（音楽評論家）

小田倫史（愛光学園教諭）



（投稿）

大阪の誇るすごい二つの合唱団の演奏を聞いて

立川孝信

一つは11月23日ルーテル大阪教会であった大阪コレgium・ムジクム合唱団の第405回のマンスリーコンサート聞いた。マンスリーとは毎月ということ、だからもう40年近く続けているらしい。

指揮者で主宰は当間修一氏でバッハ音楽を極められオルガニストとして活躍され、1975年にこの合唱団を設立された。新しい発声法、新しい運営法などを生み出し指導されている。中でも音大出身者などをオーディションで選び大阪ハインリッヒ・シュッツ室内合唱団を創られて精力的な合唱演奏が続けられている。教会での毎月のコンサートだけではなく年3回のいずみホールでの定期コンサートを開いている。今回はマルティンルターの宗教改革500年を記念してのコンサートで、すべてドイツ語の歌であった。ハインリッヒシュッツやバッハやモーツァルトの曲である。1500年頃のドイツは音楽の後進国でイタリアから大きく後退していたがイタリアに学んだシュッツがドイツに帰り自国語を大切にしたり曲を未来に向かって作り続け大きく花開かせ「ドイツ音楽の父」言われているという事を初めて知った。シュッツが作り出した合唱曲は真に荘厳で神秘的と言える合唱でそのハーモニーは神の声に聞こえたに違いない。だからバッハやベートーヴェンやブラームスなどの偉大な作曲家を生み出す土壌を作り今やドイツが音楽の都と言われているのがうなずける気がする。私にはドイツ語も宗教曲の詩の意味も全く解らなかったが研ぎ澄まされた人間の声の心地よさと重厚で洗練されたハーモニーに感動の域を超えた境地を味わえた気がする。

もう一つは我が昂T2の三谷さん所属の大阪第一合唱団のいずみホールでの第25回定期演奏会である。何と創立53年を誇っている。労音の第9からスタートして3大レクイエム、オペラ、カンタータ、などに取り組み海外演奏も旺盛に行っている。さすがに79歳の三谷さんを先頭に高齢者が目立った。しかしその声と言えは先の比較的若いシュッツの声に引けを取らない洗練された声で安定感があり、まさに年輪を感じさせる重厚さが滲み出ている。それはイギリスの作曲家ボブ・チルコットが編曲した日本歌曲を演奏した時、その真骨頂が発揮された。日本人としての言葉のやさしさや深さそして思いを伝えるひたむきさに、自然豊かな日本に生まれて良かったと心から思わせる素晴らしい演奏であった。そしてジャズ、レクイエムはラテン語、なんとアンコールはフランス語という歌を三谷さんをはじめ多くの高齢団員が暗譜で歌っていた。脱帽である。

この二つの合唱を聞いてどれだけ音楽に真摯に向き合っているか、集中力でもって闘っているか、歌が好き音楽が好きという言葉だけでかたづけられない、小さな人間の中に隠されたとてつもない大きな生命力というものを感じさせる演奏会であった。

(立川さんから、先日開催された2つの合唱団のコンサートについての興味深い文章を寄稿していただきました。ありがとうございました。)(編修子)

ロシア民謡合唱団コスモス 創立25周年記念ミニコンサート

2016年12月10日(土) 開場午後1時半／開演午後2時
大阪グリーン会館ホール(2階)
参加費 1500円

***コスモスと特別団員の演奏**
ロシアメドレー (一週間/カチューシャ/
トロイカ/ともしび/泉のほとり
カリンカ/黒い瞳)
バイカル湖のほとり
赤いサラファン
ルースカエ・ポーレ
青年の歌

***ゲスト ナターリア・コスローヴァ**
日本とロシアで活躍するウクライナ生れの
ソプラノ歌手が歌うロシア・ロマンスの世界
深い河ボルガ
私を責めないで
黒い瞳の
ウラルのぐみの木
私は罪深い

***うたう会** ロシア民謡、ロシアの歌を会場のみなさんと全員合唱

会場案内図

●地下鉄谷町線・堺筋線「南森町」③-B出口
または、JR東西線「大阪天満宮」JR3出口
天神橋筋商店街アーケードの中を天満宮方向へ、徒歩5分

後援: 日本ユーラシア協会大阪府支部連合会 連絡先: 吉本 昭子(携帯) 090-2044-4096 / 日ユ協会大阪府連 06-6763-0877